

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	25220403	研究期間	平成25年度～平成29年度
研究課題名	東日本大震災を契機とした震災復興学の確立	研究代表者 (所属・職) (平成30年3月現在)	山川 充夫（福島大学・うつくしまふくしま未来支援センター・客員教授）

【平成28年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる	
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、東日本大震災後に設立された福島大学・うつくしまふくしま未来支援センターの専任職員が中心となって、産業復興、地域計画、地域コミュニティ、災害予測・防災の4つの観点から、原子力災害による復興過程を地元・生活者の視点を重視して記録、分析し、未来の災害に備えるための「震災復興学」の確立を目指すという的を絞った画期的総合研究である。</p> <p>明確な目的と、強い意志力、専門分野を超えたチームワークがこれまで発揮され、研究は順調である。</p> <p>今後は、福島県の産業復興では重要な要素である、農業（果樹・稲作）や観光振興への復興学も重視することが望まれる。また、データ分析を超えて、復興モデルの提唱や海外発信、社会還元の手法の提示が重要になると考えられる。</p>		

【平成30年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	研究代表者及び研究分担者による東日本大震災の被災地復興に対する強い熱意に裏付けされた地域支援と被災及び復興過程の記録収集について、当初目標どおりに進展している。また、それらの研究に基づく復興支援への五原則も傾聴に値する提言となっている。さらに、インパクトファクターの高い国際学術誌への論文掲載など研究成果の発信も積極的に行っている点は評価できる。